

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2020-203506

(P2020-203506A)

(43) 公開日 令和2年12月24日(2020.12.24)

(51) Int. Cl.	F I				テーマコード (参考)
B60H 1/00 (2006.01)	B60H	1/00	1 O 2 V	3 B 0 8 4	
B60H 1/34 (2006.01)	B60H	1/34	6 5 1 A	3 B 0 8 7	
A47C 7/74 (2006.01)	A47C	7/74	C	3 L 2 1 1	
B60N 2/56 (2006.01)	B60N	2/56			

審査請求 未請求 請求項の数 7 O L (全 11 頁)

(21) 出願番号	特願2019-110829 (P2019-110829)	(71) 出願人	000005326
(22) 出願日	令和1年6月14日 (2019.6.14)		本田技研工業株式会社
			東京都港区南青山二丁目1番1号
		(74) 代理人	100165179
			弁理士 田▲崎▼ 聡
		(74) 代理人	100126664
			弁理士 鈴木 慎吾
		(74) 代理人	100154852
			弁理士 酒井 太一
		(74) 代理人	100194087
			弁理士 渡辺 伸一
		(72) 発明者	山口 彰太
			埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会
			社本田技術研究所内
		Fターム(参考)	3B084 JA02 JG02

最終頁に続く

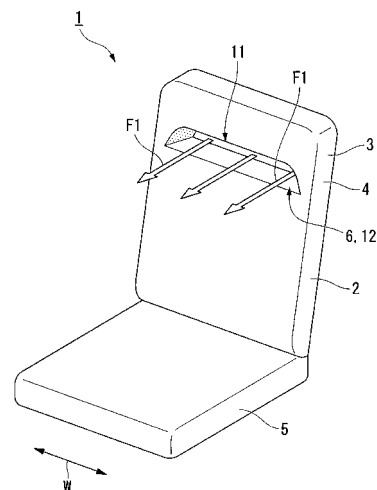
(54) 【発明の名称】 シート空調装置

(57) 【要約】

【課題】吹出口を設けたシート空調装置の外観意匠を向上できるようにする。

【解決手段】シート空調装置1は、シートバック2と、シートバック2の上部に配されたヘッドレスト3と、シートバック2及びヘッドレスト3を連結し、シートバック2の前側及び後側の一方に開口して開口方向に空気を吹き出す吹出口6を有する連結部4と、を備える。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

シートバックと、
前記シートバックの上部に配されたヘッドレストと、
前記シートバック及び前記ヘッドレストを連結し、前記シートバックの前側及び後側の一方に開口して開口方向に空気を吹き出す吹出口を有する連結部と、を備えるシート空調装置。

【請求項 2】

前記吹出口が、前記シートバックの幅方向の一端部から他端部まで延びている請求項 1 に記載のシート空調装置。

【請求項 3】

複数の人が前記幅方向に並んで着座可能である請求項 2 に記載のシート空調装置。

【請求項 4】

前記シートバック、前記ヘッドレスト及び前記連結部が、一体に形成されている請求項 1 から請求項 3 のいずれか一項に記載のシート空調装置。

【請求項 5】

前記シートバック、前記ヘッドレスト及び前記連結部が、別個に形成され、
前記シートバック及び前記ヘッドレストが、前記連結部を介して互いに接続される請求項 1 から請求項 3 のいずれか一項に記載のシート空調装置。

【請求項 6】

前記連結部には、前記シートバックの前後方向に貫通する貫通孔が形成され、
前記シートバックの前側に位置する前記貫通孔の前側開口が、前記吹出口として構成され、
前記貫通孔の内面は、前記シートバックの前後方向において前記シートバックの前側から後側に向かうにしたがって前記貫通孔の径方向内側に向かうように傾斜する傾斜面を含み、
前記傾斜面には、前記貫通孔の内側に向けて空気を通すための通気孔が開口している請求項 1 から請求項 5 のいずれか一項に記載のシート空調装置。

【請求項 7】

前記連結部には、前記シートバックの前後方向に貫通する貫通孔が形成され、
前記シートバックの後側に位置する前記貫通孔の後側開口が、前記吹出口として構成され、
前記貫通孔の内面は、前記シートバックの前後方向において前記シートバックの後側から前側に向かうにしたがって前記貫通孔の径方向内側に向かうように傾斜する傾斜面を含み、
前記傾斜面には、前記貫通孔の内側に向けて空気を通すための通気孔が開口している請求項 1 から請求項 5 のいずれか一項に記載のシート空調装置。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、シートに着座した人に空気を送るシート空調装置に関する。

【背景技術】

【0002】

特許文献 1 には、空気を吹き出す吹出口を、シートバックの上部又はヘッドレストの下部に設けたシート空調装置が開示されている。吹出口から吹き出した空気が、シートに着座した人に吹き付けられることで、当該人は清涼感を感じることができる。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献 1】特開 2011-63050 号公報

10

20

30

40

50

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

しかしながら、特許文献1のシート空調装置では、吹出口が、シートバック、ヘッドレスト及びこれらを連結する連結部（ヘッドレストステイ）とは別個のダクトによって構成されている。このため、ダクトの分だけ、外側から見えるシートの構成部品点数が多くなってしまう。すなわち、シート空調装置には外観意匠を向上する余地がある。

【0005】

本発明は、上述した事情に鑑みたものであって、吹出口を設けても外観意匠を向上できるシート空調装置を提供することを目的とする。

10

【課題を解決するための手段】

【0006】

(1) 上記目的を達成するために、本発明の一態様に係るシート空調装置（例えば実施形態におけるシート空調装置1）は、シートバック（例えば実施形態におけるシートバック2）と、前記シートバックの上部に配されたヘッドレスト（例えば実施形態におけるヘッドレスト3）と、前記シートバック及び前記ヘッドレストを連結し、前記シートバックの前側及び後側の一方に開口して開口方向に空気を吹き出す吹出口（例えば実施形態における吹出口6）を有する連結部（例えば実施形態における連結部4）と、を備える。

【0007】

(2) 本発明の一態様においては、前記吹出口が、前記シートバックの幅方向の一端部から他端部まで延びていてもよい。

20

【0008】

(3) 本発明の一態様においては、複数の人が前記幅方向に並んで着座可能であってもよい。

【0009】

(4) 本発明の一態様においては、前記シートバック、前記ヘッドレスト及び前記連結部が、一体に形成されてもよい。

【0010】

(5) 本発明の一態様においては、前記シートバック、前記ヘッドレスト及び前記連結部が、別個に形成され、前記シートバック及び前記ヘッドレストが、前記連結部を介して互いに接続されてもよい。

30

【0011】

(6) 本発明の一態様において、前記連結部には、前記シートバックの前後方向に貫通する貫通孔が形成され、前記シートバックの前側に位置する前記貫通孔の前側開口（例えば実施形態における前側開口12）が、前記吹出口として構成され、前記貫通孔の内面は、前記シートバックの前後方向において前記シートバックの前側から後側に向かうにしたがって前記貫通孔の径方向内側に向かうように傾斜する傾斜面（例えば実施形態における傾斜面13）を含み、前記傾斜面には、前記貫通孔の内側に向けて空気を通すための通気孔（例えば実施形態における通気孔14）が開口してもよい。

【0012】

40

(7) 本発明の一態様において、前記連結部には、前記シートバックの前後方向に貫通する貫通孔が形成され、前記シートバックの後側に位置する前記貫通孔の後側開口（例えば実施形態における後側開口15）が、前記吹出口として構成され、前記貫通孔の内面は、前記シートバックの前後方向において前記シートバックの後側から前側に向かうにしたがって前記貫通孔の径方向内側に向かうように傾斜する傾斜面を含み、前記傾斜面には、前記貫通孔の内側に向けて空気を通すための通気孔が開口してもよい。

【発明の効果】

【0013】

上記(1)の態様によれば、吹出口がシートの構成部分である連結部に一体に設けられることで、吹出口がシートの構成部分と別個に形成される場合と比較して、外側から見

50

るシートの構成部品点数を少なく抑えることができる。したがって、シートに吹出口を設けても、シート空調装置の外観意匠を向上できる。

【0014】

上記(2)の態様によれば、吹出口がシートバックの幅方向に細長い形状に形成されている。このため、吹出口がシートバックの前側に開口する場合には、シートに着座した人が幅方向に動いても、同一の吹出口から吹き出した空気を、シートに着座した人に確実に吹き付けることができる。また、吹出口がシートバックの後側に開口する場合には、シートの後側に居る人が幅方向に動いても、同一の吹出口から吹き出した空気を、シートの後側に居る人に確実に吹き付けることができる。したがって、シートに着座した人やシートの後側に居る人は、吹き付けられた空気によって、確実に清涼感を感じることができる。

10

【0015】

上記(3)の態様によれば、人がシートの幅方向の任意の位置に着座しても、また、複数の人がシートの幅方向に並んで着座しても、同一の吹出口から吹き出した空気を、シートに着座した全ての人に確実に吹き付けて、清涼感を感じさせることができる。

【0016】

上記(4)の態様によれば、シートバック、連結部及びヘッドレストが一体に形成されることで、外側から見えるシートの構成部品点数をさらに少なく抑えることができる。したがって、シート空調装置の外観意匠をさらに向上できる。

【0017】

上記(5)の態様によれば、吹出口を含む連結部がシートバックやヘッドレストと別個に形成されるため、シート空調装置を容易に製造できる。

20

【0018】

上記(6)の態様によれば、吹出口が連結部を貫通する貫通孔によって構成されるため、吹出口を含むシート空調装置の外観意匠をさらに向上できる。

また、上記(6)の態様によれば、貫通孔の内側に向けて空気を通す通気孔が、貫通孔の内面のうちシートバックの前側に向く傾斜面に開口している。このため、吹出口が連結部を貫通する貫通孔によって構成されていても、空気を確実に吹出口からシートバックの前側に吹き出すことができる。

【0019】

上記(7)の態様によれば、吹出口が連結部を貫通する貫通孔によって構成されるため、吹出口を含むシート空調装置の外観意匠をさらに向上できる。

30

また、上記(7)の態様によれば、貫通孔の内側に向けて空気を通す通気孔が、貫通孔の内面のうちシートバックの後側に向く傾斜面に開口している。このため、吹出口が連結部を貫通する貫通孔によって構成されていても、空気を確実に吹出口からシートバックの後側に吹き出すことができる。

【図面の簡単な説明】

【0020】

【図1】本発明の第一実施形態のシート空調装置を示す斜視図である。

【図2】図1のシート空調装置の要部を示す正面図である。

【図3】図2のIII-III矢視断面図である。

40

【図4】図1～3のシート空調装置の変形例を示す断面図である。

【図5】本発明の第二実施形態のシート空調装置の要部を示す正面図である。

【発明を実施するための形態】

【0021】

〔第一実施形態〕

以下、図1～3を参照して本発明の第一実施形態について説明する。

本実施形態に係るシート空調装置1は、例えば各種の移動体に設けられる。移動体は、例えば路上を走行する自動車、線路上を走行する列車、空中を航行する航空機、水上を航行する船舶などであってよい。図1に示すように、本実施形態のシート空調装置1(以下、単にシート1とも呼ぶ。)は、シートバック2と、ヘッドレスト3と、連結部4と、を

50

備える。また、シート空調装置 1 は、シートクッション 5 を備える。

【0022】

シートクッション 5 は、シート 1 に着座する人（以下、着座者と呼ぶ。）の臀部や大腿部などを受ける座部である。シートバック 2 は、着座者の腰部や背中などを受ける背もたれ部である。

ヘッドレスト 3 は、着座者の頭部を受ける。ヘッドレスト 3 は、シートバック 2 の上部に配される。幅方向（図 1 において矢印 W で示す方向）におけるヘッドレスト 3 の寸法（幅寸法）は、例えばシートバック 2 の幅寸法よりも小さくてもよいが、本実施形態ではシートバック 2 の幅寸法と同等である。

【0023】

連結部 4 は、シートバック 2 及びヘッドレスト 3 を連結する。連結部 4 の幅寸法は、例えばシートバック 2 やヘッドレスト 3 の幅寸法よりも小さくてもよいが、本実施形態ではシートバック 2 やヘッドレスト 3 の幅寸法と同等である。

本実施形態においては、上記したシートバック 2、ヘッドレスト 3 及び連結部 4 が一体に形成されている。

【0024】

連結部 4 は、吹出口 6 を有する。吹出口 6 は、シートバック 2 の前側に開口して前方（開口方向）に空気を吹き出す。シートバック 2 の前側は、シートバック 2 に対して着座者の腰部や背中が位置する側である。また、前方は、連結部 4 から着座者に向かう方向である。図 1 における矢印 F 1 は、空気が吹出口 6 から吹き出す方向の一例を示している。吹出口 6 の前側には、主に着座者の首部が位置する。これにより、吹出口 6 から吹き出した空気を着座者の首部に吹き付けることができる。

【0025】

本実施形態において、吹出口 6 は、シートバック 2 の幅方向の一端部から他端部まで延びている。吹出口 6 は、シートバック 2 の幅方向に細長い形状に形成されている。吹出口 6 の長手方向の両端は、例えば幅方向における連結部 4 の両端に到達してもよいが、本実施形態では到達しない。すなわち、吹出口 6 の長手方向の両端は、幅方向における連結部 4 の両端よりも内側に位置する。

【0026】

図 1 に例示するシート 1 は一人だけが着座可能であるが、シート 1 は、例えば複数の人（例えば 3 人）が幅方向に並んで着座可能であってもよい。すなわち、シート 1 は所謂ベンチシートであってもよい。この場合、シートバック 2 やシートクッション 5 は幅方向に長い形状に形成される。本実施形態では、ヘッドレスト 3 や連結部 4 もシートバック 2 と同様に幅方向に長い形状に形成される。

【0027】

図 2、3 に示すように、本実施形態の吹出口 6 は、連結部 4 をシートバック 2 の前後方向（図 3 において矢印 F R で示す方向）に貫通する貫通孔 1 1 によって構成されている。すなわち、連結部 4 には、これを貫通する貫通孔 1 1 が形成されている。シートバック 2 の前側に位置する貫通孔 1 1 の開口 1 2（以下、前側開口 1 2 と呼ぶ。）が、吹出口 6 として構成される。なお、図 3 では、矢印 F R の方向（左方向）が前方であり、矢印 F R と逆の方向（右方向）が後方である。

【0028】

貫通孔 1 1 の内面は、傾斜面 1 3 を含む。傾斜面 1 3 は、シートバック 2 の前後方向においてシートバック 2 の前側から後側に向かうにしたがって貫通孔 1 1 の径方向内側に向かうように傾斜している。このため、傾斜面 1 3 は、シートバック 2 の前側に向いており、前側開口 1 2（吹出口 6）を通してシートバック 2 の前側に露出する。

【0029】

本実施形態において、傾斜面 1 3 は、貫通孔 1 1 の内面のうち、シートバック 2 及びヘッドレスト 3 の配列方向（図 2、3 における上下方向）においてヘッドレスト 3 側に位置する領域に形成されている。また、傾斜面 1 3 は、貫通孔 1 1 の内面のうち、シートバック

ク 2 の幅方向における貫通孔 1 1 の両端に位置する領域に形成されている。なお、傾斜面 1 3 は、例えばシートバック 2 及びヘッドレスト 3 の配列方向においてシートバック 2 側に位置する領域に形成されてもよい。

【0030】

図 2 に示すように、傾斜面 1 3 には、貫通孔 1 1 の内側に向けて空気を通すための通気孔 1 4 が開口している。通気孔 1 4 は、例えば連結部 4 の幅方向に延びるスリット状や帯状に形成されてよいが、本実施形態ではドット状に形成されている。また、傾斜面 1 3 には、例えば一つの通気孔 1 4 だけが開口してよいが、本実施形態では多数の通気孔 1 4 が開口している。

【0031】

吹出口 6 から吹き出す空気は、例えば、不図示の空調ユニットからシートバック 2 やヘッドレスト 3、連結部 4 の内部を通して吹出口 6 に供給されてよい。

本実施形態において、吹出口 6 から吹き出す空気は、空調ユニットからシートバック 2 やヘッドレスト 3、連結部 4 の内部を通して貫通孔 1 1 の傾斜面 1 3 に開口する通気孔 1 4 に供給される。そして、当該通気孔 1 4 がシートバック 2 の前側に向く傾斜面 1 3 に開口しているため、図 3 に示すように、傾斜面 1 3（通気孔 1 4）を通して貫通孔 1 1 の内側に吹き出した空気は、吹出口 6（貫通孔 1 1 の前側開口 1 2）からシートバック 2 の前側に吹き出る。図 3 における矢印 F 2 は、貫通孔 1 1 の内側に向かうように傾斜面 1 3 を通った上で吹出口 6 から吹き出す空気の流れ方向の一例を示している。

【0032】

以上説明したように、第一実施形態のシート空調装置 1 によれば、シートバック 2 の前側に開口して前方に空気を吹き出す吹出口 6 が、シートバック 2 とヘッドレスト 3 とを連結する連結部 4 に一体に設けられている。すなわち、吹出口 6 がシート 1 の構成部分である連結部 4 に一体に設けられている。このため、吹出口 6 がシート 1 の構成部分と別個に形成される場合と比較して、外側から見えるシート 1 の構成部品点数を少なく抑えることができる。したがって、シート 1 に吹出口 6 を設けても、シート 1 の外観意匠を向上できる。

【0033】

また、第一実施形態のシート空調装置 1 によれば、吹出口 6 がシートバック 2 の幅方向の一端部から他端部まで延びている。すなわち、吹出口 6 がシートバック 2 の幅方向に細長い形状に形成されている。このため、シート 1 に着座した人（特に首部）が幅方向に動いても、同一の吹出口 6 から吹き出した空気を、シート 1 に着座した人（特に首部）に確実に吹き付けることができる。これにより、シート 1 に着座した人は、吹き付けられた空気によって、確実に清涼感を感じることができる。

【0034】

また、第一実施形態のシート空調装置 1 によれば、シートバック 2、ヘッドレスト 3 及び連結部 4 が、一体に形成されている。このため、外側から見えるシート 1 の構成部品数をさらに少なく抑えることができる。したがって、シート空調装置 1 の外観意匠をさらに向上できる。

【0035】

また、第一実施形態のシート空調装置 1 によれば、吹出口 6 が連結部 4 を貫通する貫通孔 1 1 によって構成されている。このため、吹出口 6 を含むシート空調装置 1 の外観意匠をさらに向上できる。

また、第一実施形態のシート空調装置 1 によれば、貫通孔 1 1 の内側に向けて空気を通す通気孔 1 4 が、貫通孔 1 1 の内面のうちシートバック 2 の前側に向く傾斜面 1 3 に開口している。このため、吹出口 6 が連結部 4 を貫通する貫通孔 1 1 によって構成されていても、空気を確実に吹出口 6 からシートバック 2 の前側に吹き出すことができる。

【0036】

また、第一実施形態のシート空調装置 1 において、複数の人がシート 1 の幅方向に並んで着座可能である場合には、人がシート 1 の幅方向の任意の位置に着座しても、また、複

10

20

30

40

50

数の人がシート 1 の幅方向に並んで着座しても、同一の吹出口 6 から吹き出した空気を、シート 1 に着座した全ての人（特に首部）に確実に吹き付けて、清涼感を感じさせることができる。

【0037】

第一実施形態のシート空調装置 1 がベンチシートである場合、ヘッドレスト 3 や連結部 4 は、例えば、同一のシートバック 2 に対して、シートバック 2 の幅方向に間隔をあけて複数配列されてもよい。

【0038】

また、第一実施形態のシート空調装置 1 において、吹出口 6 は、例えば同一の連結部 4 においてシートバック 2 の幅方向に複数配列されてもよい。

10

【0039】

また、第一実施形態のシート空調装置 1 において、吹出口 6 は、連結部 4 を貫通する貫通孔 11 によって構成されなくてもよい。すなわち、連結部 4 は、例えばシートバック 2 の前側だけに開口する吹出口 6 を有してもよい。

【0040】

また、第一実施形態のシート空調装置 1 において、吹出口 6 は、例えば図 4 に示すように、シートバック 2 の後側に開口して後方（開口方向）に空気を吹き出してもよい。シートバック 2 の後側には、人が居ることのできる場所（例えば後部座席）があってもよい。吹出口 6 は、例えばシートバック 2 の後側だけに開口してもよい。

【0041】

20

図 4 に例示するシート空調装置では、図 3 に例示したシート空調装置 1 と同様に、吹出口 6 が連結部 4 をシートバック 2 の前後方向に貫通する貫通孔 11 によって構成されている。また、貫通孔 11 の内面が傾斜面 13 を含み、傾斜面 13 には貫通孔 11 の内側に向けて空気を通すための通気孔（不図示）が開口している。

ただし、図 4 の構成では、シートバック 2 の後側に位置する貫通孔 11 の開口 15（以下、後側開口 15 と呼ぶ。）が吹出口 6 として構成される。また、傾斜面 13 は、シートバック 2 の前後方向においてシートバック 2 の後側から前側に向かうにしたがって貫通孔 11 の径方向内側に向かうように傾斜している。

【0042】

図 4 に例示したシート空調装置によれば、吹出口 6 がシートバック 2 の後側に開口する。このため、シートバック 2 の後側に居る人（例えば後部座席に着座した人）に空気を吹き付けて清涼感を感じさせることができる。また、図 4 に例示したシート空調装置によれば、図 3 に例示したシート空調装置 1 と同様の効果を奏する。

30

【0043】

例えば、吹出口 6 がシートバック 2 の幅方向に細長い形状に形成されていれば、シートバック 2 の後側に居る人が幅方向に動いても、同一の吹出口 6 から吹き出した空気を、シートバック 2 の後側に居る人に確実に吹き付けることができる。

また、図 4 に例示したシート空調装置では、貫通孔 11 の内側に向けて空気を通す通気孔がシートバック 2 の後側に向く傾斜面 13 に開口している。このため、吹出口 6 が連結部 4 を貫通する貫通孔 11 によって構成されていても、空気を確実に吹出口 6 からシートバック 2 の後方に吹き出すことができる。

40

【0044】

第一実施形態のシート空調装置において、吹出口 6 は、例えばシートバック 2 の前側及び後側の両方に開口して前方及び後方に空気を吹き出してもよい。

【0045】

〔第二実施形態〕

次に、図 5 を参照して本発明の第二実施形態について説明する。本実施形態では、第一実施形態と同様の構成要素について同一符号を付す等して、その説明を省略する。

【0046】

図 5 に示すように、第二実施形態のシート空調装置 1A は、第一実施形態と同様に、自

50

動車、列車、航空機、船舶などの移動体に設けられ、シートバック 2 A、ヘッドレスト 3 A 及び連結部 4 A を備える。シートバック 2 A、ヘッドレスト 3 A 及び連結部 4 A の基本的な構成は、第一実施形態と同様である。例えば、連結部 4 A は、第一実施形態と同様にシートバック 2 A 及びヘッドレスト 3 A を連結する。また、連結部 4 A は、第一実施形態と同様にシートバック 2 A の前側に開口して前方（開口方向）に空気を吹き出す吹出口 6 A を有する。なお、連結部 4 A は、例えばシートバック 2 A の後側に開口して後方（開口方向）に空気を吹き出す吹出口（不図示）を有してもよい。

【0047】

ただし、第二実施形態のシート空調装置 1 A では、シートバック 2 A、ヘッドレスト 3 A 及び連結部 4 A が別個に形成されている。また、シートバック 2 A 及びヘッドレスト 3 A が、連結部 4 A を介して互いに接続される。

10

また、第二実施形態のシート空調装置 1 A では、連結部 4 A の吹出口 6 A が、ドット状に形成され、シート 1 A の幅方向（図 5 において矢印 W で示す方向）に複数配列されている。

【0048】

図 5 に例示するシート空調装置 1 A では、幅方向におけるヘッドレスト 3 A の寸法（幅寸法）が、シートバック 2 A の幅寸法よりも小さいが、例えば第一実施形態と同様にシートバック 2 A の幅寸法と同等であってもよい。また、連結部 4 A の幅寸法が、シートバック 2 A やヘッドレスト 3 A の幅寸法よりも小さいが、例えば第一実施形態と同様にシートバック 2 A やヘッドレスト 3 A の幅寸法と同等であってもよい。

20

【0049】

第二実施形態のシート空調装置 1 A では、第一実施形態と同様の効果を奏する。

また、第二実施形態のシート空調装置 1 A によれば、吹出口 6 A を含む連結部 4 A がシートバック 2 A やヘッドレスト 3 A と別個に形成される。このため、連結部 4 A がシートバック 2 A やヘッドレスト 3 A と一体に形成される場合と比較して、シート 1 A を容易に製造することができる。

【0050】

第二実施形態のシート空調装置 1 A では、連結部 4 A の吹出口 6 A が、例えば連結部 4 A の幅方向の一端部から他端部まで延びる細長い形状に形成されてもよい。また、連結部 4 A の幅寸法がシートバック 2 A やヘッドレスト 3 A の幅寸法と同等である場合には、第一実施形態と同様に、吹出口 6 A が、シートバック 2 A の幅方向の一端部から他端部まで延びる細長い形状に形成されてもよい。

30

【0051】

また、第二実施形態のシート空調装置 1 A は、例えば第一実施形態と同様に、複数の人が幅方向に並んで着座可能なベンチシートであってもよい。この場合、ヘッドレスト 3 A や連結部 4 A は、例えばシートバック 2 A と同様に幅方向に長い形状に形成されてもよい。また、ヘッドレスト 3 A や連結部 4 A は、例えばシートバック 2 A の幅方向に複数配列されてもよい。

【0052】

また、第二実施形態のシート空調装置 1 A では、例えば第一実施形態と同様に、シートバック 2 A の前後方向において連結部 4 A を貫通する貫通孔によって構成されてもよい。この場合、貫通孔の内面は、第一実施形態と同様の傾斜面を含み、傾斜面には、貫通孔の内側に向けて空気を通す通気孔が開口するとよい。

40

【0053】

以上、本発明の詳細について説明したが、本発明は上述した実施形態に限定されるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲において種々の変更を加えることができる。

【符号の説明】

【0054】

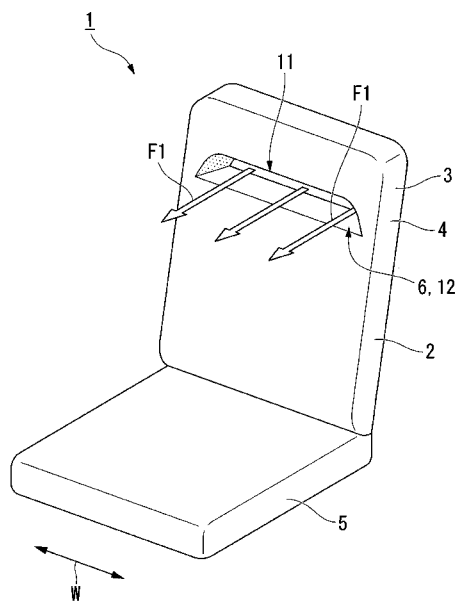
1, 1 A シート空調装置（シート）

2, 2 A シートバック

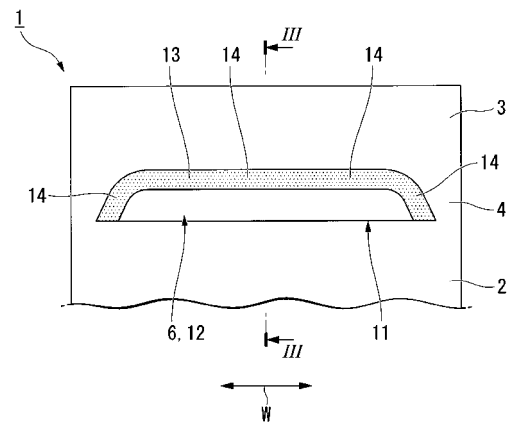
50

- 3, 3A ヘッドレスト
- 4, 4A 連結部
- 6, 6A 吹出口
- 11 貫通孔
- 12 前側開口
- 13 傾斜面
- 14 通気孔
- 15 後側開口

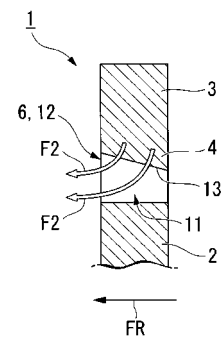
【図 1】



【図 2】



【図 3】



フロントページの続き

Fターム(参考) 3B087 DE01 DE10
3L211 BA03 BA08 DA53